

～輝きの子育て～

子どもの底力を引き出す言葉

「やる気を出してもらうために」子どもが「イヤがること」は「10秒でいいからやってみよう」と働きかけましょう。スタートしてから軌道に乗るまでのハードルはとにかく低く、小刻みにしてください。

「人の行動を改善するために」親や指導者の多くは、理屈で人を動かそうとしたりします（認知論的アプローチ）。しかし、頭では「そうしたほうが良い」とわかっていても、なかなかそう動けないことも多いもの。

よって、「信頼感」や「感動」で人を動かすほうが良いのです（情動論的アプローチ）。

「人を動かすために」特に親や指導者は、子どもの一挙一動に好奇心持つことです。少しでも何か変化はないでしょうか。その一挙一動に、子どもなりのどんな工夫や思いやり、善意がひそんでいるでしょうか。それらに気付いたら、それを口に出して伝えることです。

ですので、「そんなもの集めて、なんになるの？勉強しなさい」「なんでそんなことをするの！人の迷惑はやめなさい」などと頭ごなしに言わず、「たくさん集まったね。ここまでがんばれた理由を教えて」誰かに喜んでもらおうと思って、そうしたのかな？教えてくれる？」などと声をかけましょう。

「人に信頼されるために」子どもから尊敬と信頼を得るには2つのことを意識しましょう。それは、相手が「①自分には能力がある」「②自分が中心でありたい」と思いたがっているということです。そこを傷つけたり軽んじたりする発言・行動をしているうちは、尊敬や信頼はえられません。

ですので、「なんで、そんなこともできないの？」「さっき教えたばかりなのに、なんですぐわすれるの！」などと叱らないでください。「〇〇のときだってできたんだし、次はできるよ」「ゆっくり聞くから、何か思い出せないか話してみて」などと相手を尊重しましょう。

「親子関係がなぜうまくいかないのか？」親が子どもを“細かく監視”している場合、物事はうまくいきません。

職場で、常にすぐそばに上司がいて、一つ一つの行動を監視しているようなものです。やることなすことに上司が注意をしてきて、果たしてのびのび仕事ができるでしょうか？能力が伸びるでしょうか？

まず、無理です。しかし、それを毎日のように子どもにやっているのが、多くの親御さんです。

「人に好かれるために」常に「人の良いところを見つける」訓練を。それが対人関係改善の基礎です。お子さん相手でも同じことです。